

特別な支援を必要とする子供への就学前から学齢期、社会参加までの切れ目ない支援体制整備

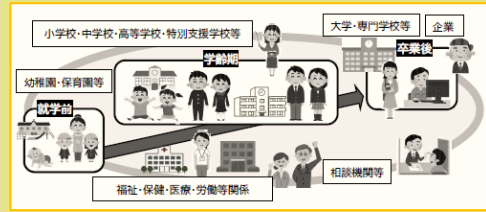
目的

①本県の課題

特別な支援を必要とする子供を、早期から関係機関と連携して支援の輪を広げながら、社会へつなぐことが求められる。そのツールとして、「個別の教育支援計画」の作成率向上と活用、引継ぎ、及び関係機関の連携をコーディネートする担当者の専門性向上を図る必要がある。

②目的

就学前から社会参加までの切れ目ない支援のための連携体制整備を目指す。



成果

①得られた成果

- ア) 「個別の教育支援計画」の作成率の向上と学校間の連携強化
- イ) 関係機関との連携の意義の理解向上、関係構築
- ウ) 地域ネットワーク構築のモデル市町の好事例の情報共有
- エ) 異校種参加の研修を通じた連携強化による見通しのある支援
- オ) 就労支援コーディネーターの配置による実習先、就労先の開拓とジョブコーチ的役割による障がい者への理解促進

②成果を踏まえた今後の取組

- ・整備された体制の機能強化を目指し、切れ目ない支援が確実に行われるよう継続的に連携充実を図り、児童生徒の自立と社会参加を進める。

事業内容

主な取組

◆成果ウ) 地域ネットワーク構築のモデル市町の好事例の情報共有

H31年度2市町を地域ネットワーク構築のモデル市町に指定。「早期からの関係機関との連携」「個別の教育支援計画等の共通様式の検討と引継体制の強化」をテーマに実践。これらを含む市町の好事例を市町村教育委員会が共有することで、各教育委員会が関係機関との連携の方法を工夫したり、連携先を広げたりする等、実効性のあるネットワーク構築を行っており、好事例（具体例）の周知が実効性につながっている。参照：リーフレット（教師が保護者に説明するときを使用）

◆成果エ) 異校種参加の研修を通じた連携強化による見通しのある支援

高等学校特別支援教育コーディネーターと小中学校、特別支援学校の巡回相談員の合同研修会をR2年度より実施。この研修により、参加者は専門性の幅を広げるとともに、相談員との連携を深め、引継ぎを強化する等、見通しのある支援につなげている。

◆成果オ) 就労支援コーディネーターの配置による効果

県内2地区に2名の就労支援コーディネーターを配置（1名→2名に増）し、実習先、就労先開拓、ジョブコーチ的役割による職場内での障がい者への理解促進を行っている。また、県内4地区で地区別戦略会議を開催し、関係者で障がい者雇用に対する課題を整理、各機関で改善に向けた取組を行っている。

作成したリーフレットの一部

「個別の教育支援計画の作成と活用」(R3)

「個別の教育支援計画」は、誰が作って、どう活用するの？		
時期 (おおよす)	就学・進学先の学校は…	こんなメリットがある
作成 入学後 ～1学期	本人・保護者の同意を得て、一緒に作成 ○前職校からの引継ぎ内容を踏まえて、校内委員会等で支援内容を検討します。 ○本人、保護者と相談して一緒に「個別の教育支援計画」を作成し、確認します。 ○「個別の教育支援計画」をもとに、「個別の指導計画」を作成します。	○学校は、児童生徒の苦しさや困難に配慮した学校生活を準備できる。 ○切れ目ない支援を受けることで、環境が変わっても安心して生活できる。 ○適切な指導を続けられたので、授業がわかる。
活用 評価 定期 学期末	効果的な支援の蓄積 ○お子さんの教育的ニーズの変化を、的確に把握します。 ○継続的な教育相談を実施します。 ○「個別の指導計画」に、学期ごと達成可能な目標をたてて、きめ細やかに指導します。 ○放課後等デイサービスや家庭等と共有した支援を行うことができます。	例えば… 支援の具体例 ★文字を書くことが苦手な場合 タブレットを活用して文字を入力することに挑戦 ★イラついてしまいがちな場合 学習が始まる前に静かな部屋で本を読む時間を設定 ★集中する時間が短い場合 一つの活動を、集中できる内容や時間に区切り、達成感を感じられるように学習 ★曖昧な情報や指示が分かりにくい場合 具体的な内容や優先順位を示す
評価 引継ぎ 年度末	評価と引継ぎ ○目標に対して、どこまで達成できたのか、今後の課題は何かを評価します。 ○本人、保護者の同意を得て、進級・進学先、就労先へ引継ぎます。	○具体的な目標をたて、本人も意欲して取り組むことができる。 ○褒められる場面が増える。 ○丁寧に引継ぎられることで、継続した支援が可能になる。

「個別の指導計画」には…
お子さんの実態に応じて適切な指導を行えるよう、一人一人の指導目標、指導内容及び指導方法を明確にしたもの